



# 広島女学院同窓会 佐伯地区だより

(第33号) 2019年5月15日発行

## 『2019年度の聖句』

わたしたちは知っているのです。苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを。  
希望はわたしたちを欺くことはありません。 <ローマの信徒への手紙 5章 3～5節>



## 2019年度を迎えて

佐伯地区長 内山豊子 (高8)

皆様お変わりございませんか。

昨年は災害の多い年でした。被災された地域には未だに困難な生活を強いられている方々がおられることと思われまふ。その方達に思いを寄せて「希望」をテーマに今年度の年間聖句が選ばれました。災害に限らず、核廃絶・世界平和の道のりも未だ遠く、又私達の日常生活もいつ難題に遭遇するかわかりません。しかし希望さえ失わなければ乗り越えることができるのではないのでしょうか。

さて私達佐伯地区のボランティア活動も20年近く続けられていますが、毎回皆さん笑顔で参加くださっています。今年もこの活動を続けてゆきたいと思ひます。

「地区だより」は昨年から森さんが担当して下さり、カラー刷りでいっそう楽しいものになりました。通信欄にいただいたメッセージでも好評でした。ぜひ最後まで目を通してお楽しみください。

多くの方が同窓会活動に関心を持ち、どんなかたちでも活動に参加して下さることを期待しています。例えば年一回のクリスマス会や発送作業に参加すること、地区だよりに投稿すること、年会費振り込みのため郵便局へ足を運ぶことなど…。

今年も希望を持って歩んでまいりましょう。

今年度「あやめ会」

5/15 7/17 9/18 11/21 1/15 3/18



### 二〇一八年度活動報告

#### \*ボランティア活動

奇数月の第三水曜日

十時～十四時「楽々荘」

#### \*地区だより発送作業

五月十六日(十七名参加)

#### \*クリスマス会

十二月一日(土) 二十二名参加

ホテル広島サンプラザ三階

会費(四千元)

讚美礼拝・親睦会

#### \*地区総会

二〇一九年三月二十日(水)

#### \*クリスマス献金

各施設に一万円

清鈴園、止揚学園、広島キリスト教社会館

廿日市高齢者ケアセンター

### 二〇一九年度役員

地区長・内山豊子

副地区長(兼)書記・森静子

会計・中田チズ

会計監査・山崎みどり

幹事・田中朝子、高山和江、平山純栄

穴戸るり子、田村敦子

### 二〇一九年度活動予定

#### \*ボランティア活動

奇数月の第三水曜日

十時～十四時「楽々荘」

弁当持参。部分参加可能。

お気軽にどうぞ、お待ちしております。

#### \*クリスマス会

十二月四日(水)

参加希望の方は会費納入用紙の

通信欄にご記入ください。

# サーロー節子氏

## 特別講演会をお聴きして

2018年11月23日にサーロー節子さんの講演会が広島女学院大学砂本記念講堂で盛大に開催されました。1000人を超える出席者があり「キリスト教主義女子教育と平和・私が受け取ったもの、あなたに託したいもの」というテーマのもと、大盛況の講演会でした。



### ❀ 内山豊子 (高8)

私が広島女学院の高校生の頃、日曜ごとに出席していた流川教会に大学生であったサーロー節子さんも来ておられた。仲良し三人がいつも一緒に行動しておられ、私はあこがれの先輩としてまぶしい思いで眺めていた。しかしその笑顔の奥に原爆で亡くなった家族や友人達への悲しい思いが秘められているのを当時の私は知る由もなかった。大学卒業後、留学先の米国で反核発言に対して脅迫状を受けた節子さんは悩んだ末、亡くなった多くの犠牲者のためにもヒロシマを語り続けることが生き残った自分の使命であると自覚された。結婚後カナダ在住中も機会ある毎に被爆証言を続けられ、やがてそれは国際的場に於いて核廃絶運動へとつながり全世界へと発信されていった。その集大成ともいえるノーベル平和賞は、私達同窓生をはじめ広島の人々にどれほどの喜びと勇気を与えたことか。この度の母校での講演会でサーローさんは多くの同窓生に暖かい拍手で迎えられた。そのメッセージは力強く私達の胸に熱く響いた。そしてその思いは確実に若い世代に受け継がれていくことでしょう。壇上の節子さんはお若い頃にもましていっそう輝いておられた。

### ❀ 田中朝子 (高15 短大14)

2017年「ノーベル平和賞」受賞、サーロー節子さん(87才)おめでとうございます。広島女学院の宝であり、世界の宝です。2018年11月23日広島女学院大学の講演会に参加しました。会場には1100人の同窓生が全国からかけつけました。サーロー節子さんは13才と7か月の時、被ばくされました。その時の学徒動員作業は暗号メッセージの解読です。こんな大切な任務を女学生13才に任せるしかなかったのかと、私の心は痛みました。「一発の原爆がすべてを奪った、それが私の怒りと行動の原点だった」とサーローさんは言われ、「皆さんは今から核をなくすため何をするか教えて欲しい。市民一人ひとりが具体的な行動を起こすことが大事だ」と訴えられました。私にも核廃絶署名運動に積極的に参加することは出来る、まずこの一歩から始めようと思われました。

## 2018年12月1日 クリスマス会



今年のクリスマス会はホテル広島サンプラザにて二十一名もの同窓生をお迎えして盛大に行われました。賛美礼拝では聖書のイエス様降誕の五か所を選びその一節ごとに讃美歌を五曲歌い、皆さまの美しい声が響き渡る善き賛美礼拝となりました。あやめ会には高八卒の皆さまが八名いますので、とても頼もしい同窓生として大活躍をされています。今回は新たに二名の高八同窓生の参加があり、そのうちのお一人はアメリカ・ジョージア州からのご参加でした。写真の皆さまのお顔がとても華やかに輝いています。恵と祝福の多いクリスマス会となりました。



俳句

野村久子(高女五二 専保二)

露天湯の女体は霧が隠しけり

研ぎ澄ます刃の月の寒さかな

風花に触れては子らの帰り来る

春めきし夕月色を得つつあり

水浴びの鳥の訪れ春隣

我が家にはすぎし朱の椀七日粥

鬼の面取ればこぼるる年の豆

鹿も輪に入り磯宮のとんど焼

金泥の突むらとなりし宮とんど

工房は漆の匂い梅月夜

風花…雪のこと  
磯宮…宮鳥のこと



和歌

宮河利恵(文英二四)

宮中の歌会始に詠進歌をお送りするようになり十余回を数えます。これまでの和歌をお題と共に並べてみます。選者の方によりますと、選心基準は「はっとする驚きや感動があること」「和歌とは恋愛の歌」とのことです。「静」の歌はチエコの作家カレル・チャペックが著書「園芸家十二か月」で引いた英国のことわざ「待てばバラの花咲く時もある」をもとに作りました。

「静」 この春も君の植えたるバラ咲きて

季節が来ること静かに教える

「本」 黙詠がはじめてできたおどろきを

ふと思ひ出す

午後の日だまり

「人」 旅の途中「自分のことを愛せず

人は愛せぬ」そう言った君

「光」 初舞台目映い照明類に受け

奏でる母の真摯さ光る

突然ですが、十余回にわたり読んで頂きましたこの和歌の欄、今回でひとまず「了」とする事と致しました。皆さまからのお言葉は励みになり嬉しく思いました。掲載のお世話になりました役員の皆さまに心より御礼申し上げます。  
本当にありがとうございました。(宮河利恵)

## 2018年度会計報告 会計・中田チズ（高20・文英2）

収入	前年度繰越金	138,964円	支出	地区だより（印刷・発送）	185,277円
	会費（272口）	272,000円		振込手数料・雑費	1,987円
	寄付金	19,650円		献金・寄付	40,000円
	定期預金より入金	100,000円		会議費	10,840円
	その他（利息）	6円		次年度繰越金	292,516円
合計		530,620円	合計		530,620円

別途30万円の定期預金あり

会計監査・山崎みどり（2019年3月6日）

### 皆さまの声 …用紙通信欄より(2018年度)…

🌸 幹事の皆さま、いつもお世話になり有難うございます。地区だより、ほのぼの愉しく読ませて戴いています。（廿日市市・水野瞳）

🌸 お世話になります。2,000円少額ですが寄付いたします。お身体ご自愛下さいませ。

（佐伯区・中川敬子）

🌸 お世話になります。会費を払わなければと思いつつそのままにしてしまうことがあり会報を読ませて頂き申し訳なく思いました。昨年は同期会もあり先生方とお話しする機会に恵まれました。

（廿日市市・神下謡子）

🌸 ご送付をいつもありがとうございます。もう1年が過ぎたと驚くばかりです。私も生き延びて83才になりました。ヒザ痛と戦いながら杖と椅子を頼りにまだ「アベマリア（グノー）」などをハモっておりますがこの原点は学院での讃美歌のお蔭です。

（廿日市市・桑田澄子）

🌸 昨春より仕事を辞めて母（89才）の介護をしています。母がデイサービスに行っている昼間、女学院時代の友達と読書会・映画鑑賞・ランチ会など楽しんでもいます。ルワンダのマリールイズさんや女学院大学でのサーロー節子さんの講演会に参加し、色々考えさせられました。（佐伯区・木村敬子）

🌸 最近足が不自由になり歩行が困難になってしまいました。色々な行事にも参加出来ないと思うと寂しい限りです。毎日主人と向き合って食事ができる、これだけでも幸せと思います。（廿日市市・石本世紀子）

🌸 Home Coming Day2018の後、学年会に出席致しました。沢山の懐かしい方にお会いでき前置き無しであの時代に戻れる幸福を味わいました。

（廿日市市・大曜子）

🌸 新鮮な地区だよりいいですね。以前参加していた頃よりも多くの方の参加が嬉しい限りです。

（佐伯区・河野幸子）

🌸 日々感謝と共に老後を「楽しく」をモットーに過ごしています。

（佐伯区・山本明子）

🌸 手作りの通信嬉しく読ませて頂いています。今後共宜しくお願い致します。（佐伯区・新本孝子）

🌸 新しい感覚での佐伯地区だよりを嬉しく拝見いたしました。

（佐伯区・吉岡澄子）

🌸 美しくリニューアルされた「地区だより」を楽しみながら読ませて頂きました。活動に参加された方々の穏やかな笑顔や紙面にちりばめられたカラフルなカットにも元気を頂きました。ありがとうございます。

🌸 新元号の年が災害に見舞われることなく平穏な日々でありますように。（廿日市市・中服郁子）

### 編集後記

地区だよりは毎年新年度の5月に発行していますが、掲載している内容は前年度の記事となっております。昨年度の最大のトピックスは、世界に誇る大先輩のサーロー節子さんが母校で貴重な講演会をなさったことです。私達に何が出来るのか問われる機会となりました。新しくなった地区だよりを楽しんで頂いている声をお聞きし、とても嬉しく励みになっています。心から感謝いたします。（森）

